夕刊 磐城新聞
十一月十五日發行
日曜祭日翌日休刊

民謠の大衆性に就て

—提唱する民謠の文學運動根本主義—

ジー・ワイ生

上

民謠は飽迄も民衆の謠であつて、決して特權階級の謠ではない。而して民衆の謠なるが故に、大衆性こそその全生命的とすべきである。大衆性の無いものは、構成表現の上で民謠的であらうとも決してそれは民謠ではあり得ないといふことを屢々われわれは聽かされた

又、民謠は決して人々の言ふ如く、詩の第二主義的の存在ではない。寧ろ民謠こそ第一義的なものだ、然るが故に最も藝術的でなければならない。といふ藝術民謠派の提唱も、われわれの屢々耳にしたところである

われわれは、二者何づれの言説にも一面の眞理を肯づくことは出來得やう。然し乍ら此の二説には、餘りに片寄り過ぎた憾みがあるやうに思はれる。盲人の象の誹謗を免れ得ないものであらう

前者は餘りに大衆性に囚はれ、民謠の持つべき文學性、藝術性を全然閑却して了つたのである

後者がまた、極端に自恃的な詩人根性を暴露して、深みのない詩人的强の精神調に拘泥し、藝術民謠と稱呼して、必要缺く可からざる大衆性を滅却して了つたことは遺憾此上もない

民謠は其の名稱の如く民の謠である故に、何は兎もあれ先づ大衆性を絶對的必要とすることは否めなからう。だが多くの民謠詩人諸君は、此の大衆性の本義を輕卒にも誤解してゐるのである。特に流行歌謠を作詞してる人々に、此の傾向が多いやうに思はれる。レコーデングを終局の目的とする場合に於いて、此の傾向は一層いちヾるしいものがあるやうに思はれる。曖昧模糊たるテーマ・ヒロインが居なくて、ヒロインのゐるやうな歌詞、糊と鋏の詩句の亂舞、卑俗のあくどい言葉、無理な言葉等等を盛り上げて、これでこそレコード向きの大衆性といふものがあるのだと、言はぬばかりの歌詞が氾濫横行しまたそれに油をそゝいで止まない歌謠雜誌編輯者や先輩詩人の多いことは、嘆かはしいといふよりも、憤ろしいものがある

潮聲硯靜抄帳

運動會

籾干して居れば靜かに日の當る　欣々子
稻架けて門道せまき住居かな
籾干してこゝろゆたかに主ゐる
籾すりの窓にあかるき風立ちぬ
古里の香にひたりけり

磐城歌壇

新妻久滿男選

佐藤俊美

○伯父をみとりていつしか廿日すごしたり、眞白き部屋の今はうれしく
○あじさゐのしぼみし頃や突然に、親しき友の死ぬるをきけり
○よはひ短くゆきにし人をはるぐ\と、あけぼの空に吾は惜しむも
○酒よひの父を臥しどにみちびけば、うたゝねの味の樂しと云へり
○うき事のことぐ\く去りし今日の日は、チンドン屋のかねをしみぐ\ときく

小評　初學者の歌であるにしては、思ひの外のまとまりをみせてゐる。表現上の技巧などにはしらず素直な詠み方をする樣に心掛けたらよいだらう。今後一層精進を望む。

童話 上機嫌

—老下僕の手紙—

燕坂 蜷一

西暦千八百十八年十一月×日

レチチア・ラモリノ樣

私は今夜も亦、拙い手紙を書くことにしました

『爺よ。きつと度々手紙を出してお呉れ。わたしはそれを唯一の樂しみに待つてゐるのですから……』

お別れ申す折に、さう仰言ひました奥さまの御言葉が、今も私の耳の底に殘つてゐます。ローマ郊外に老年を寂しく暮してゐらつしやる奥さまのことを想ふとき私は手紙を書かずにはゐられないのです

今夜は秋とは名ばかり、赤道近いこの孤島では、想像以上の暑さです。けれど空には霧が淡くよどんで椰子の梢にぼんやり月が懸つてゐます。しみじみ故郷が戀しく胸に迫る宵です。奥さまに手紙を書き送るには、まことにふさわしい夜なのです

昨日は、めづらしく涼しい日でした。海底火山が造り上げた、眞黒な斷崖ばかりのこのセントヘレナの孤島には、めつたにない涼しい風が渡つて來ました。ナポレオンさまは、朝から大層機嫌が良つたのです。毎日眞苦しい酷暑に訶まれてゐる人々にとつては、抄！その涼しい風さへ大變嬉しいのです

その朝、ナポレオンさまは、島を監視して廻る二艘の英國軍艦を遠い沖にぢつと瞶められたり、遙か彼方の斷崖に小さく立ち盡してゐる哨兵の姿に、微笑を浮べたりなる程でした。私がコルシカ人の下僕として、赤道越えてはるばる。ナポレオンさまの御用を足しに派遣されて來てから、もう二年あまりになりますが、その間にさへ一度も出逢つたことのない程機嫌がよかつたのです

とろゝ汁　石城
かたむきし案山子に時化の募るらし

新秋即興（其一）

珠雲　小野務平

朝來尋壑未知勞
領取秋光意自豪
貧果狙公來復去
金天一碧鶴聲高

うつし世

秋野夕雀

星は
樂しい末來花
妾のつぼみはまだかたい
咲いてそはれるそれまでは
つぼみの花であつてくれ
夜はひえびえ秋の風
胸に猫いた空想よ
醉ふてみぬ世にあこがるゝ
乙女心は火となつて
星數かぞへて果もなき
想ひに似たる
うつし世や

その日

11月16日
△幕府、水戸齋昭の謹愼を解く（天保一五）△西郷隆盛僧月照と海に投ず（安政五）△我が攻圍軍背島入城（大正三）△無電王マルコーニ侯夫妻來朝（昭和八）

○

農家でも漸やく刈り上げ終へて今晩は一家團欒の惠比壽講だ

講談 黄金魔刀

（5）　高桑義生作　樋口悦也畫

夜光の土圭（五）

『さういふわけで、すぐ一緒に連れて來て貰ひたいのだ』

と、その武士は耳から口をはなした

『なるほど……』

箕部といふ武士の目は始終寛之助にそゝがれてゐる

『大壺が直々お前を取調たいといふのだ。それで本統ならもう一度そのお仕着を着て繩に就て貰はなけりやならないのだが、どつちにしたつて同じ事だ。とにかく一度は大壺にお目通りをしなくてはならない。そりやアわかるだらう。仕方がない事だ。さあ、では立て わしの名を聞かして置かう 箕部錦藏といふのだ』

寛之助は錦藏ともう一人の武士に伴はれて、其處を出た

氣まぐれな霧はいつの間にか薄れて、月の光がとけてゐる。其處は同じ門でも非常口——で、嚴密にいふと、寛之助が今ゐた處は非常口番人詰所である

『源次そのお仕着を換へてしまへ』

錦藏は振替つて

宏大な巴大壺の屋敷、大壺のゐる處までは、相當歩かなければならない。處々に先刻の連中が棒をひつさげて立つてゐた。まだ警戒を解かないのだ

『御寢所か』

『さうだ、庭先に廻らなけりやならない』

呼びに來た武士を先に寛之助を間にして、錦藏が一番あとから夜目にも數奇をこらした後庭に入つて行く

其處にも小者が提燈を照らしてゐる

檜ふき、唐破風、いかめしい建築の家が一方池に臨んで立つてゐる。晝間見たらよほど立派な莊嚴なものであらう

（御殿のやうだ）と寛之助は心の中で呟いた

その縁側の戸が一枚だけ開けてゐて、奥の燈火の色が深々と漂つてゐる、音もない縁側の下には五、六人が平つくばつてゐる、相當重要な屋敷人達であらう、彼等の手に古風な雪灯が二つさゝげられてゐる。それから少し離れて侍風の者が二人づゝ左右に立つてゐる。なんとも物々しい。まるで大名屋敷だ

寛之助達が來ると、彼等は一樣に處を變へた、平つく這つた連中が左右にわかれて、その中心に錦藏等三人が正面を向いて立つた

『其處へ平伏するのだ』

と錦藏は寛之助にいつた

寛之助は棒のやうに突立つて、錦藏を見返した。その眼にはつきり反抗の色がある。錦藏は頭を振つて目くばせした。それが我慢しろ、時と場合だ——といふやうに見れた。寛之助は大地に坐つた

『箕部殿、召連れました』

と先刻の武士が立つたまゝだが、恭々しく頭をさげた

中で重い咳ばらひがした

『箕部です』

と錦藏がいつた

『御苦勞だつた』

響きのある、ドッシリした聲、島原屋東左衛門である

『その小僧、貴樣、當家の小者どもに挑まれる前、何者か見たであらう？どういふ人間だ？』

『知らねえ』

と寛之助は答へた

左右にゐた者が、そのいけぞんざいな口の利きやうを咎めたが、寛之助は平氣でつゞけた

『俺が走つて行く、向ふからだしぬけに走つて來てあつといふ間もねえ、ドシンとぶつかつた。振返ると其奴はもう霧の中。すると棒を持つた野郎どもが、藪から棒にかゝつて來やがつた　それでおしまひさ』

『しかし小僧、風態ぐらひは……武士とか町人とか、その位の事は考へつくだらう』

やゝあわてた聲だつた

『いゝや、わからない』

『面を見せろ』

といふと、寛之助の顔近々と雪灯がさしつけられた

旅行には!!
素晴しい乘心地の！
三五年式流線型新車を!!!
是非御利用御用命の程を御願申します。
（三）　三井タクシー
平　二
電話　六八五番

贈答物に
鰹魚節
御値段ハ御相談ノ上如何程にても御自由です。
日華生命保險株式會社平代理店
宍戸屋商店
平町四丁目
電話（鹽干部）二一五番
（鮮魚部）四〇七番

吸入用酸素　純度99%
度量衡
モノサシ　マス　ハカリ
計量器
体温器　寒暖計
◎秤ノ取次・緒・糸・錘・復致シマス
關内藥局
電話四〇番

結核に！
ホシ　アンチツベルケン
.50　1.50　3.00　5.00
結核恐るゝに足らず!!
「不治の病」とは一種の迷妄——

結核豫防週間
肺結核は年々增加の傾向にあり、結核のために死亡する者は年々十二萬と稱せられ、また死亡までには至らないが、仕事も出來ずブラ〳〵して廢人同樣の生活に墮ちて居る人々を合すると實に約百萬乃至百五十萬人に上る推定である。當局は每年結核の撲滅と豫防の爲め國民の喚起を促す爲に努め、本年も四月廿七日より一週間を結核豫防週間として全國的に持たれてゐるがこの豫防週間を吾人が效果あらしめなければならぬ。

肺及び呼吸器疾患
肺病療法の根本は先づ必ず治る、「肺病は不治の病」とは一種の迷妄に過ぎぬことが、今日明になつたのであるからして治して見せると云ふ確固たる信念を持つこと即ち闘病の信念を固く持つこと、胃腸の健全をはかり營養物の消化吸收を良くし以て病氣に對する抵抗力を養ふこと、日光浴をすること、日光中の紫外線を最も治療的效果たらしめ、以て之が結核菌を殺し又身體の新陳代謝を能くした上に、これに信頼すべき藥劑をあせらず迷はずに、此の藥なら必ず治ると云ふ信念を以つて服用する、事であります。

ホシアンチツベルケン
は本社が大なる自信と誇りとを持つて居る有名藥の一つであつて結核菌に對する效能と、同時に咳を鎭める效と、輕度の熱を下げる作用とを兼有して居る藥であります。
本劑は肺結核、肺尖カタル、肋膜炎、氣管支カタル、腐敗性氣管枝カタル、に能く效く優秀なる治療藥であり、其他咳を鎭め痰を去り喘息にも奏效藥であります。

肺結核の疑ある人よ！
迷ふことなく、ホシアンチツベルケンに來たれ！

「健康の黎明」と題する呼吸器病治療に關する小冊子あり是非御一讀を勸む。チエーンストアに無き時は本社營業部宛御申込あれ無料送呈す。

全國ホシチエーンストアにあり
クスリはホシ
東京・星製藥株式會社

店員募集
弊店に於て店員を左記條件に依り二名募集致します
一、年齢滿十三歳より十八歳まで
二、身体强固にして勞働に耐へるもの
三、なるべく農村出身を希望致します

開拓販賣員募集
星本社の發展にともなひ星製品専門の開拓販賣員を左の條件にて募集致します
一、年齢滿二十歳以上たること
二、身体健康にて正直なる者
尙兩方とも詳細に亘る條件は來店の上御相談御待ち申上げます

履歷書は自筆にて前もつて御送付願ひます。面會日御知せ致します。

ホシチエンストアー平支部
ホシ藥舖
平町三丁目　電話四二九

鑛産税分配奪取戰 知事が適當に裁定か

窮迫の關係九ケ町村に轉げ込む 半額委讓以來の十三萬圓

去る七年度半額地方委讓以來の磐炭、入山兩炭礦礦產稅（磐炭七八、六九〇圓 入山四七、九九〇圓）をめぐる分配問題はさきに

平　好間　飯野　內郷
鹿島　玉川　磐崎　箕輪
湯本

の關係町村長が平町に會同種々協議したが纏らず結局知事の裁定を待つ事になり其の旨陳情したので近く縣當局では前記關係町村長を招き懇談的に協定する筈である

この問題は內郷、好間、磐崎、湯本の如き純然たる炭礦所在地と單に鑛區のみ或は平町の如く炭礦關係の發電所を有する等夫々事情を異にする間の意見が區々で終に纏まらなかつたのであるが今回は縣の斡旋により愈々妥協がつくものと見られてゐる

佐藤代議士米國出發 來廿八日橫濱着豫定

本縣選出代議士佐藤庄太郎氏はわが衆議院を代表してベルギーブラッセルに開催の萬國議員總會に出席しその後各地を視察中であるが昨十四日サンフランシスコ的帆の龍田丸に乘船、今月二十八日橫濱港着で歸國する兩三日滯京の上福島に歸る豫定であるといふ

十二の學校賞中 郡下で半數を獲得

兒童書道展に氣を吐く

本縣師範附屬小學校主催の第四回縣下兒童成績品展覽會は今十五日より三日間、書方は女子師範校、圖畫は男子師範校に夫々開催郡下各校よりも多數優秀作品を出品したが今十五日開會に先立ち早朝嚴重審査を行つた結果、書方の部學校賞十二校中本郡はその半數たる平第一、同第二、同第三、草野、內郷高坂、小名濱の六校が入選、從來各種展覽會その他で常に優秀な成績を收めてゐる本郡は今再た之によつて書道石城の名を全縣下に馳せたわけだ

國調委員に 記念品を贈る

平町では今回の國勢調査員四十一名並に豫備員、指導員五十七名に對し十七日午後一時から會議室に記念品贈呈式を擧行する

平戸籍會

石、双二郡より成る平戸籍會總會は十三、四の兩日內郷村淺野記念館に開き出席九十名に上り盛會、平、植田、小名濱、久の濱新山の幹事改選を行つた

菊田山村へ 政府拂下米

田人村外三ヶ村組合では過般農林省に對し政府米拂下を申請中であつたが此程三百叺を拂下げられた、一叺九圓八十七錢

東邦彫塑展 赤堀氏等を中心に けふから開館

赤堀信平氏等を中心勢力とする東邦彫塑院では今十五日より二十九日迄上野公園東京府美術館に第一回展覽會を開催し常例帝展の無い今秋の上野に彫塑の淸新を聚め大に斯界を彩る事になり第一日の今招待デーは朝來の好晴で多數觀覽人で賑つたと

招魂碑用の 砲身拂下出願

小名濱軍人分會で

小名濱町在郷軍人分會では既報の招魂碑建設に關し海軍より砲身の拂下を受ける事になり十八日小野町長が橫鎭に出張交涉する

荷物愛護 趣旨强調

平驛では年末を控へて行はれる來る二十一日から二十七日迄の全國荷物愛護週間に際し各方面を督勵して荷物の盜難防止、拔取、不著、破損、荷崩れなどに警戒する

明後日曜を覘ひ 大童の鐵道當局

川前の紅葉終り近づく

石城の秋を彩る川前の紅葉は去る明治節以來列車遭難現場を見物がてらの探勝客で賑はつてゐるが二、三日前の風で大半吹き拂はれたが殆ど色があせて明後十七日の日曜には最後の人出を見せるものと鐵道では目下各方面の團体募集（汽車賃個人二割、團体三割引）に當つてゐる

郡下教員庭球大會

明十六日接戰

縣体育石城支部主催東日杯爭奪の郡下敎員庭球大會は愈々明十六日正午より平商業並に平第一コートに於て開催されるが目下の申込は左記十九組で組合せは開會前決定の筈盛會を豫想されてゐる、なほ前回の優勝は好間尋高校であつた

(小名濱)鈴木—武　木—
田—荒川　(湯本)岡部—
田部　瀧—小林　(泉)鈴
木—上遠野　野原—山田
(赤井第二)班目—室井
(好間)渡邊—增井　長谷
川—濱田　金子—中山
吉川—新田　伊藤—川島
(磐崎第二)竹原—松崎—
(平第一)水竹—松本　井
上—中村　(同第二)渡邊
—橋本　米本—熊谷　(同
第三)　西牧—三本杉　菱
沼—風間

湯本消防へ 金馬簾授與

湯本町消防組はさきに鐵骨火の見櫓、消防貯水池、集會所を建設、警察電話架設に際し盡力した廉により十四日畠田警察部長より金馬簾一條を授與された

路上に―大枚四百廿兩

遺し主の鮮魚商判る 謝金に笑む農青年

湯本村字水の谷字鹽ヶ崎農小木野庄吾(三)君がきのふの夕方稻束をしよつて小名濱街道を通行中路上に大蟇口が轉がつてゐるのを發見、中を調べると百圓、十圓の札を取まぜ四百二十圓の大金が入つて居たので吃驚し平署に屆け出ると間もなく遺し主の小名濱町船引場鮮魚商佐川藤太郎さんが蒼くなつて馳せつけて來たがそれと知つて大喜び、小木野君は謝禮として四十二兩を貰ひこれ亦喜んで引き下つた、晩秋トピック、喜びの二重奏だ

赤十字社 强化宣傳

平町では今十五日から三日間の赤十字デーに際し一層內容の充實を圖る爲各方面の會員募集に當つてゐる

入山炭礦 素人角力

湯本町入山炭礦では十七日午前九時から同礦グラウンドで從業員の素人角力大會を行ふ

磐中模擬試驗

磐城中學校では今十五日第四學年二種生(上級校志望)に對し國漢英數の模擬試驗を行つた

植田石川間バス 愈々近く實現か

實地踏査に關係住民喜ぶ

植田、石川間の省營バス運轉に關しては過般來關係地元民の熱心な運動もあり當局でも相當の關心を拂ひつゝあつた模樣であるが愈々其の必要を認めたものか最近其筋から係官が出張全路線の實地踏査を行つたので之により少からぬ利便にあづかる植田町民などはその實現近きにありと雀躍してゐる

懲り性の無い手長青年

懲役二年の求刑

大野村駒込字高垣無職鈴木操六(一九)假名—に係る竊盜事件は今十五日午前九時から平區で香西判事係り淸田檢事關與公判開廷、事實審理の上懲役二年を求刑された

同人は去る六月中同村戸田字堰原農戸田菊治方不在宅に忍入り箪笥中から二十三圓餘在中の手提金庫を竊取した外數件の竊盜を働いたが年少の故を以て起訴猶豫になつたのを良い事に去る二日夕刻草野村下神谷字志賀雜貨商戸田建三郎方軒下から同所大工職靑木義雄の中古自轉車を搔拂つた外數回の惡事を働きその都度巧妙な方法で犯跡を晦まし終に四倉署に擧げられたものである

啼かれたが百年目

目白賣込みの自動車中 同乘の警官に捕はる

玉川村駐在金澤巡査が昨十四日午後乘合自動車內で平町に來る途中同乘した商人風の男が所持の風呂敷包から小鳥の啼く聲洩れると俄にうろたへ出した擧動が怪しいので本署に連行取調べると右は湯本町上町五四川越長兵衞(五九)で同人はさきに密獵で平署から罰金十圓に處せられたにも性こりず去月來同町成田山附近からメジロ十羽を捕へこれを平町ベニヤ小鳥店に賣り飛ばす途中と判明目下取調中

湯本小學校 卒業生見學

湯本小學校本春卒業の尋高二百五十名は職業指導デーの行事として今十五日岡部訓導引率の下に來平諸官衙等見學したが平區裁判所では午前十時から中島裁判長より講演をきいた

水道料滯納整理

平町では來る二十一日午後一時から給水料滯納百餘圓に對する差押へ物件の公賣を行ふ

家出人搜索二件

茨城縣鹿島郡高松村大字粟生料理業大川まき方雇人野邊はつ(三〇)は去る八月二十七日前借八十五圓で同家に住み込んだが去る一日自動車で同郡鹿島町小澤醫院に治療に行くと稱して家出したまゝ行方不明まきから、又、平町杉平一九重次郎三男第一小學校生徒鈴木武雄(一四)君は十二日午後六時頃家出十三日登校はしたがそれきり行方を晦ましたので何の事情か判らぬと重次郎から何れも其筋に搜査方を願ひ出た

隔離

上小川村大字上小川字植の山鶴田イマ(三七)は腸チフスと決定十五日隔離

歸りの山道で發病

手當効無く絕命 酒が過ぎた癲癇老爺

三阪村大字上三坂字中町八六ノ一運搬夫須賀川町生れ鈴木金次郎(六二)は一昨十三日田村郡夏井村から炭賣りの歸途泥醉し三坂村字後澤地內道路で癲癇をおこし虫の息になつてゐるを昨十四日朝發見、間もなく死亡した

華盛頓から

祝御當選
遙かに御祝申上げます
一〇、二四　佐藤庄太郎
蓮沼龍輔樣

今夜えびす講

商家にとつては年二度の重要な意義を有つ行事

けふ舊の十月廿日、今年も漸く殘り少なを思はせるエビスコウ（夷講夷子講、惠比須講などと書く）である何年來の傳統として各戸とも何分に應じた祭事を營むのであるがさて如何なる意義をもつ行事であるか、之をものの本に就て見る

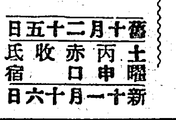
—毎年十月二十日に諸國商家で夷子神の影像を掲げて祭る行事『二十日夷』とも云ふ。正月十日の夷講に一年中の商業の繁昌を祈り、此日之が報賽として夷子神を祭るのである。今も商家で行はれ、此夜親戚知己を招いて盛讌を張りて祝する、往時は座敷の杯盤器具等を賣る眞似をなし、千兩萬兩など云つて値の出來た處で手を拍つ習慣があつた。呉服商は賣切れを賣り出す慣例がある。此前日東京では『べつたら市』が立つ、又當日呉服店では『ゑびす切れ』を出す

舌代

昨日レンズ盜難に就ては早速御心配御見舞に預り難有奉深謝候
以御蔭右は複寫用（寫眞カラ寫眞ヲ寫ス特殊用途ノモノ）のみに有之人像用及一般用の高級レンズは無事に有之候
右樣の次第平素通り營業には何等支障無之候間何卒御安心被下度
略儀乍ら以紙上御禮旁々御挨拶迄如斯御座候　敬具
平町驛前　サクラ寫眞館
各位

十六日 （小名濱測候所調査）
日出 六、一二　月出後 九、四五
日沒 四、三一　月沒前 一一、〇六
滿潮 前九、〇〇 後六、三〇　干潮 前一、三五 後一、三〇

舊十月二十五日　土曜　丙申　赤口　收　氏宿　新十一月十六日



諸判定應需　東京市本郷區湯島四丁目五番地　高島易斷總本部　神誠館

▲一白 專念業務を勵みて家居安全迷心は失敗の本▲二黑 他より虛に乘ぜられ拾捨困難に陷る事あり▲三碧 勇猛猪突は萬事を破壞す短慮急心を愼む▲四綠 妄動する時は死地に入る本業を守るが安全▲五黃 感情の行違ひを生じ易し溫和融合なるが吉▲六白 はやる心をおさへて穩かに處すれば吉日となる▲七赤 才能に應じて謀を立つるはとがなし病難注意▲八白 敵地に乘込みて討死をとぐる如し注意▲九紫 內心苦勞ありて人に告げがたくあうなうする日

廣告

株式現物賣買
三共商事合資會社
平町大町通り
電話三六〇番

新田町
榮ちゃんの
しろうど料理
天下一品不味い
榮ちゃんの
おでん

平町田町
井坂醫院
電話　五五九番

廉賣奉仕!!
牛肉ノ部
極上ロース百匁金六十錢
上　肉　同　金四十錢
並　肉　同　金三十錢
豚肉ノ部
ロース同　金五十錢
極上　同　金四十錢
上　肉　同　金三十錢
並　肉　同　金二十五錢
櫻肉ノ部
上ロース百匁金二十二錢
上　肉　同　金十八錢
評判ノ
カツレツ　一ケ　金拾錢
コロツケ　六ケ　金拾錢
配達ハ迅速ニ致シマス。
一丁目　武田肉店

食事、喫茶、酒場を兼ねた
冬のサロン
暖房設備が出來ました。
御家庭の延長として
是非御利用下さいませ
暖かい御飲物　ミルク（生乳）十錢
リプトン紅茶　十錢
お菓子　十五錢
平・田町・電三五二　男給の店　イワキサロン

殉節六百年紀念
大楠公讚仰會
石城郡玉川村君ヶ塚
立正堂主　鈴木禎昭
淸吉改名

類燒
改築三週年記念
スポーツに紅葉狩りに秋冷快適の折からハイキング、ピクニツク等の砌是非御立寄を御願致します。
因みに價格は左の割引を以て御客樣の御愛顧に酬ひんとする弊店の意の在る所を御酌取り下さい。
ヒレナベ（御一人前）四十五錢ヲ四十錢
ロースナベ（同）三十五錢ヲ三十錢
平町田町
石川亭
電話　四三番

探勝に療養に
常陸　關南鑛泉（創業二百餘年）
附近名勝
■五浦岡倉天心別莊
■大津港・平潟港
■勿來關・天妃山
常磐線關本驛下車バス連絡（平驛ヨリ一時間半）
効能　神經衰弱　胃腸病　神經痛
茨城縣多賀郡關南村
名湯　鹿の湯　松屋
一泊一圓五〇錢
赤ノ津　輿　身